



東京八王子プロバスクラブ

創立 1995 年 10 月 18 日

プロバスだよ

第286号

2019 年 9 月 12 日発行

編集・発行：情報委員会

2019～20年度 テーマ

素敵に輝いて 素敵なクラブライフを！

第 286 回 例 会

日 時：令和元年 8 月 8 日(木) 12:30～14:30

場 所：八王子エルシィ

出席者：50 名 出席率 85 %

(会員総数 61 名、休会 2 名、欠席 9 名)

会食とハッピーコイン披露

野口例会副委員長の進行で会食に入り、田中副会長からハッピーコイン 13 件の披露があった。

(4～5 ページに掲載)

1. 開 会 野口例会副委員長

第 286 回例会の開催を告げ、配布資料を確認。

2. 会 長 挨拶 飯 田 会 長

連日大変暑い日が続いています。例会へのご出席ありがとうございます。

来年に迫った「創立 25 周年記念事業」と 2020 年の「全日本プロバスクラブの総会」開催の件については、それぞれのご担当から説明を頂きます。

今月はちょっと飯田のプロフィールをお伝えしたいと思います。「飯田さんは何をやってきたの？」とよく聞かれるからです。

私は甲府駅から 4 分のところに実家があり、100 年以上続く薬・化粧品の販売をしている商家の生まれです。大学卒業後は商社勤務を経て佐藤製薬に勤務し、その後ベンチャー企業として㈱環境管理センターを創設し経営してきました。

本社は西八王子駅の南口にあり、恩方、千葉、埼玉には研究所を持っています。研究所では、環境の調



査・測定・分析・コンサル業務を行っており、社員 300 人の会社です。最近、話題となった豊洲市場の水質検査や PM2.5、放射線・ダイオキシンの分析など、時代の先端を行く環境行政の一端を担ってきました。

私の趣味は沢山ありますが、今はサッカー J2 ヴァンフォーレ甲府を応援し、大相撲では甲府出身の竜電(前頭 5 枚目)を応援しています。

私の信条は渋沢栄一等の次の言葉です。

① 恕(じょ)の心を持つ。② 「日に新た、日に新た、また日に新た」の気持ちを持つ。③ 何時迄も気を若く持ち、引っ込み思案にならない事が健康に何よりの良薬である。

暑さ厳しき折、体調には十分気を付けて来月も元気にお会いしましょう。

3. バースデーカード贈呈

8 月生まれの会員に池田会員手作りのバースデーカードが贈られた。



写真左から久野、八木会員、(会長)

(宮崎、竹内 会員は欠席)(敬称略)

4. 卓 話 「最近の旅事情」 野口 浩平会員 旅の始まり

私の世界を股に掛けた旅の始まりは、青少年の健全な育成を目的とするユースホステル運動との関わりから始まった。

1971 年 9 月に世界のユースホステルを泊まり歩くことを目的に、「冒険ができるのも独り者のうち」「何でも見てやろう」で旅立ったのが、翌 72 年 11 月までの 15 ヶ月間、400 日に及んだ世界旅行だった。



訪れた国はヨーロッパ・アジア・中近東・北アフリカ・米国・カナダと国の数にしておおよそ 40 か国余りを巡った。中でもモロッコのマラケシュ、トルコのイスタンブールのエキゾチックな町並みは今でも忘れられない印象が強く残っている。

旅の途中、手持ちの金が底を尽き、大使館に駆け込んで、家から送金してもらったこともあった。この旅行の間、日本国内では冬季五輪で笠谷選手など日本のジャンプ陣が金銀銅を独占したことや、72 年 2 月に起こった浅間山荘事件も、人伝には「大きな事件があったらしい」とは聞いていたが、大事件の詳細も知り得ない世界旅であった。

こんな気儘な一人旅の後、旅の魅力が忘れられず、世界旅行への挑戦は続いている。勿論仕事を持ち、家庭を持ってからは、休暇を利用しての妻との二人旅であった。この後半生の旅も、回数にすると 100 回を超えている。

私の旅は旅行会社のツアーに参加するのではなく、若い時の経験を生かして、自分のプランを旅行会社に手配してもらいやり方が主である。現在でも年に 25 日程の旅は続けており、気に入った国には毎年のように訪れている。今年も 11 月には船旅で台湾、石垣島、沖縄クルーズを予定している。

これから残された人生、一つでも多くの世界遺産を巡ることが私の夢である。

最近の旅事情

ここ 3~4 年で大きな変化が出てきた。パスポートも小型のものになり、機械にパスポートを通すとゲートが開く方式になっている。以前のように人の手でパスポートにハンコを押すことはない（希望すればおしてはくれるが）。空港のサービスカウンターでも、手荷物を預けるくらいで、紙のチケットをやり取りする手間も省けるようになっている。

旅の心得

① 健康であること。快食・快眠・快便に尽きる。

② 自分は自分で守る。

③ 高齢者の旅のお勧めは「クルーズの旅」で優雅にのんびりと。

5. 幹事報告

一瀬幹事



① 会長挨拶にもありましたように来月 9 月の例会時に臨時総会を開催いたします。議案は「全日本プロバス協議会第 10 回総会(2020 年)ホストクラブ就任の件」です。詳細内容は別紙にて説明いたします。

② 例会前のコミュニケーション活性化の一助としてコーヒーマシーンを導入致しました。例会の一時コーヒ一片手に皆様ご自由に語り合ってください。例会委員会に管理をお願いいたしますが是非ご利用ください。

③ 幹事報告の時間の一部を使って会員の皆様（毎回 1 人）とお話するセッションを設けます。これもコミュニケーション活性化が狙いです。題して「だみ声と話そう」です。指名された方協力よろしくお願いします。基本的にはハッピーコインの話題を題材に登場願おうと考えていますが、今回は先月出がけに玄関で気を失って怪我をされながら元気に復帰された阿部治子会員をお願いいたしました。怪我に至った経緯や気を付けるべきことなど率直にお話しいただきました。またプロバスライフでのご経験から皆さんなんでも声をかけられる雰囲気の大切さを強調されているのが印象に残りました。

④ 7 月は役員交代に伴い会長にお供して各所に挨拶に行っていました。

3 日 八王子南ロータリークラブ 会長 幹事挨拶

10 日 八王子南ロータリークラブ例会出席

16 日 市役所 市長 教育長 部長挨拶

17 日 八王子市民活動協議会理事長・事務局長挨拶。
一通り終えることができました。

6. 委員会活動報告

(1) 例会委員会

野口副委員長

本日の出席者数は会員 50 名、会員の出席率は 85%です。本日の卓話は、私、野口浩平による「最近の旅事情」でした。

(2) 情報委員会

河合委員長

① プロバスだより第 285 号をお届けしました。今月の編集は持田副委員長の担当でした。紙面は 10 ページ建てとなりましたが、これは総会の報告、新会員の紹介、取材記事、投稿等内容が多岐にわたった為です。

② ホームページの先月 1 か月間のアクセス回数は 310 回でした。ホームページは昨年より内容の刷新を図っており、徐々にその成果が表れつつあります。今後も引き続き情報の整理や見易さを工夫し、内容の充実に努めてゆきます。

③ プロバスだより 9 月号の編集担当は内山副委員長です。原稿については早めをお願いします。

(3) 会員委員会

寺田委員長

特にありません。

(4) 研修委員会

山口委員長

① 本年度野外研修を以下の通り企画しました。

皆様の参加をよろしくお願いいたします。

開催日:2019 年 11 月 14 日 (木)

研修先: 静岡県沼津港周辺の散策、御用邸記念公園～展望大型水門「びゅうお」～昼食～深海水族館

会費: 7,500 円

② 9 月の卓話

会員番号 151 番 鈴木 均会員の「ブータン紀行」を予定しています。

(5) 地域奉仕委員会

武田委員長

第 24 回生涯学習サロンのカリキュラム、運営方法について委員会で審議しております。来月、概略をご報告いたします。

(6) 交流担当

田中担当理事

「横浜まろにえプロバスクラブ」から創立 10 周年記念祝賀会開催のご案内がきています。出席ご希望の方はお申し出ください。目下、当クラブからは会長、副会長、幹事の 3 人が出席予定です。

(7) 宇宙の学校

下山 PJ リーダー

7 月 21 日の教育センター会場の第 2 回スクーリング (写真) で、第 1 学期に相当する「宇宙の学校」は無事終了し、夏休みになっています。延べで 91% の参加率で、まずまずの滑り出しでした。初めての八王子学園もスタートし中学生の皆さんがしっかり務めてくださって、うまくいきました。2 学期以降の予定に変更はありません。

尚見学の方で、午前中の学生のボランティア研修は、見学必要がない方は、13:30 に集合してください。ボランティア研修で指導をする方、受付等の準備で任務の方は 10:00 集合です。(この方々は高取会員、または下山から連絡します) ただし全くはじめての見学の方は、初回はボランティア学生の研修を見て頂くことが必要と思いますので、10:00 集合をお願いします。



7. その他

(1) 25 周年記念事業準備委員会報告 杉山 友一

先月新年度の総会でご承認いただいたクラブ創立 25 周年準備委員会は、7 月 25 日に第一回の委員会を開催いたしました。以下会議の結果をご報告いたします。

① 来年の 25 周年の記念事業につきましては、当クラブは従来から八王子「宇宙の学校」を通じて青少年奉仕を行っていることから、25 周年記念事業も青少年を対象とすることとしたいと思います。

計画する事業のコンセプトは、タイトルを「次代を育てる はばたけ未来!! 音楽祭」とし、市内の小学校合唱部、中学校吹奏楽部 (共に市内の最優秀校)、それに高校から和太鼓演奏の最優秀校を招聘します。更に、常に全国的にトップレベルを走る八王子学園高等学校吹奏楽部の演奏を加えて、小・中・高、音楽応援プロジェクトを展開する予定です。そして、この事業を八王子市文化芸術振興条例の協賛事業と位置付けて、八王子市教育委員会と連携を取りながら進めてまいります。

期日は来年 10 月 3 日 (土)、会場は「いちょうホール大ホール」です。

② 記念式典及びレセプション・パーティーは、いち

ようホールでの事業を終えて、エルシィ会場に移動して午後5時からを計画しています。

③ 記念誌の発行については、5、10、15、20周年と毎回発行してきておりますので25周年も発行を予定致しました。

④ 全体の事業費については、クラブの特別活動準備金に、当日の式典レセプション・パーティーへの個人参加費を以って賄う予定です。

以上、準備委員会として、来期のクラブ創立25周年を目指して計画を進めて参りたいと存じますが、折々に、各委員会さん、或いは個々の会員さんにお力をお借りしなければなりません。25周年の区切りは、「親睦」・「研鑽」・「地域奉仕」のプロバスクラブのあるべき姿を外に向かってお示しする良い機会でもあります。どうか特段のご理解とご協力をお願い申し上げます。どうぞ宜しくお願い致します。

(2) シニアダンディーズの出演案内 立川富美代

① チラシをお配りしてありますが、9月7日(土)にいちようホールで開催される「秋の交通安全イベント・八王子市民の集い」にシニアダンディーズが出演します。

② 10月14日(体育の日)に横山町公園で行われる「Dr. 肥沼の功績を讃える会」主催の「八王子ビールまつり」にシニアダンディーズが出演します(歌の演奏は午後2時から)。

③ 歌に興味のある方、団員を募集しています。特に条件はありませんが、毎週月曜日の練習に参加することが必要です。

8. プロバス賛歌斉唱

9. 閉会

田中副会長



例会の始まる前のコーヒーコーナーや「だみ声と話そう」等新しい試みも始まりました。如何でしたでしょうか。

特段の暑さも未だ暫く続くようですが、どうぞお体に気をつけて、来月又元気で会えますように。

ハッピーコイン

◆霧降高原のクスゲ平でヨツバヒヨドリにとまってミツを吸っているアサギマダラを撮ることに成功しました。ラッキー！！ 内山 雅之

◆渋谷日向子選手の快挙に感激！！周囲が足を引っ張らないことを切に願います。 馬場 征彦

◆全英女子オープンを制した渋谷日向子選手の笑顔が日本中を元気にしてくれました。暗いニュースが多い中久々にホットな明るいニュースにハッピーです。暑いので体調に御注意下さい。 飯田富美子

◆昭和20年8月2日未明、米軍爆撃機B29による八王子大空襲、2時間に及ぶ、1,600トンもの焼夷弾による波状攻撃。その間を、逃げ惑いながら生き延びた命が今ここにある。戦後74年、平和に感謝。

杉山 友一

◆来週、京都在住の娘一家の所へ孫二人に会いに行く予定。帰国子女もようやく落ち着いて学校に行っている様なので様子を見に。 一瀬 明

◆本日から例会前にコーヒ一片手に談笑できる様に試行を開始しました。ハッピーな気分です。 一瀬 明

◆渋谷日向子さんの快挙に敬意しワンコインを！！

野口 浩平

◆八王子まつりの日に兄弟姉妹8人と、そのつれあいやその子ども達、孫達合計33人が集まり、宴がありました。上は85才から下は70才の兄妹が全員、健在であることは大変幸せを感じました。

土井 俊玄

◆8月初めに北アルプスの名峰「槍ヶ岳」に登頂しました。山頂の最終アタックは、鎖や梯を使つての岩登りであり、スリル満点でした。 有田 進治

◆先日、老人会の人達を伴い、高尾に「イワタバコ」観賞会に行ってきました。「イワタバコ」の群生に全員感動しました。 八木 啓允

◆渋谷日向子選手、全英女子オープン優勝おめでとう。徹夜でTV中継観戦。応援した甲斐がありました。尚元会社の同期の仲間(ロンドン在住25年)が、「頑張れ」と書いた用紙を掲げながら応援している姿がTVに映されたのにはビックリ。翌日彼に

「TV 中継で君をみたよ～」とメッセージを送って
きました。

山野 稔

◆年々暑さが増すように感じるのも年のせい、あ
と一息頑張っ乗り越えようと自分に言い聞かせて。

田中 信昭

◆7月11日開催の臨時パスト会長会の残金(914円)
をハッピーコインに納めさせていただきます。

馬場 征彦



元八王子北條氏照まつり

土屋 三千代



私が住んでいます元八王子
地域には、八王子城跡があり
ます。八王子城は平成18年に
日本100名城に選ばれました。
小田原に本拠をおいた北條三
代目氏康の三男、北条氏照が
八王子城を築きました。

戦国時代の末期、その戦火の中で、今から428年
前、最後に真っ赤な炎を上げ華々しく散ったのが八
王子城です。

八王子城は関東屈指の山城です。現在、城山は様々
な動植物が生息し、四季折々の様子を目にすることが
出来ます。あわせて、
八王子城跡ガイダンス
施設には八王子城・北條
五代の貴重な展示品や
山頂本丸跡を望むこと
もでき、散策すれば歴史
を学ぶとともに、豊かな自然に触れる有意義な時間
を過ごすことが出来ます。



元八王子連合町会自治会が主催する元八王子北條
氏照まつりは、今年10月27日に高尾街道を舞台に
鋼板に威し糸を編み込んだ手作り甲冑と手作り衣装
を着た武者行列と、幼稚園児の鼓笛隊、ダンスグルー
プの踊り、八王子消防署の消防自動車と音楽隊の演
奏などの行列が行われます。

武者行列には町会自治会の有志や地元の八王子城
跡三ツ鱗会や北條氏ゆかりの伊豆の国市菰山城代表、
小田原市小田原城代表、寄居町鉢形城代表、所沢市滝

の城代表、八王子市滝山城代表
の方々が集まり、馬三頭を含め
て総勢500名のパレードとな
ります。



高尾街道の元八王子小学校
の校庭に集結して、出陣式、八
王子四谷町の竜頭の舞などの
パフォーマンスを行います。又、前日には八王子城跡
ガイダンスでパレード部主催の講演会として「八王
子城跡と甲冑の歴史」と地域芸能のとんとん昔話、元
八王子住民協議会サークルの合唱などを行います。

元八王子北條氏照まつりも今年で第8回を迎えま
す。より充実したまつりにしたいと私もパレード部
の一員として頑張っています。

現場主義とプロバスト

一瀬 明



もうもうたる白煙と火花の
中を溶鉱炉からとうとうと流
れ出る1,350度の溶湯。古い
話で恐縮であるが、社会人
としての一步を踏み出した50
年前に話はさかのぼる。場所は
四阪島、四国から20キロ離れた

瀬戸内海の孤島である。

学校を出て配属された金属製錬の現場技術者とし
てニッケルという金属を製造する現場で、オヤジほ
どの年代の社員を監督する立場にあった。彼らはい
わゆるたたき上げの職人で経験と勘によってその溶
湯の色と火花の出具合で炉の状態を瞬時に判断でき
る「炉の神様」といわれる人もいた世界であった。

それを科学的知識(冶金学)で解釈し暗黙知を形式
知に変換していくのが我々学校出の若造の使命であ
ったのだが、「現場が価値を生む」という現場主義者
となった私の原点である。

それ以来長い会社生活にあって(最後の7年ほど
経営を担った時期を除いて)、ずっと現場の第一線に
立ち続けた。700名を超える従業員の工場長時代には
パートのおばちゃんを含めて全員の名前を覚えた。
それが現場管理者として最低限必要なことだと考え
たからである。(今は恥ずかしながら大事な方の名前
さえ出てこないことが多い。顔は浮かぶのだが)

一人一人の顔が見える職場にし、その上でそれを

生かすのにどういう手を打ったらいいかを考え続けてきた。いわゆる「戦略は現場にあり」である。現場主義者として Gembalogy（私の造語で“現場 Gemba 学”）を構想し実践してきた。

そして今プロバス。プロバスにも現場がある。例会の現場、生涯学習サロンの現場、宇宙の学校の現場。かつての企業での現場論と何が同じで何が違うのか。

そんなことを考えている時、6 月例会で聞いた桜美林大学の芳賀教授の講演は刺激的であった。教授は「“老年の哲学”を持って」と言われているのだと受け取った。「幼にして学び 壮にして行い 老にして教える」儒者にして経世家熊沢蕃山の言葉が頭に浮かんだ。老にしていかに身を処すか、いかに生きるべきか、今まさに哲学が要求されているのではないか。あの忌まわしいナチのアウシュビッツ収容所を生き延びた فرانクル は限界状況の中で「まず哲学せよそれから死ね」と考えたそうだ。（アウシュビッツ収容所をかつて訪れたことがあるが、何ものかが問いかけてくるあの場の厳粛さは今も忘れられない）

老にして教えるとは上から目線で教えるということではなく、「学び直せ・生き直せ」と解釈したい。

老年期に入った今、プロバスの現場でもう一度 Gemba 学を学び直し、構築し直せるのではないかと思うのである。現場主義者としての模索は続く。

始めて「アサギマダラ」を見て 内山 雅之

ヨツバヒヨドリ（四葉鶉）はキク科フジバカマ属。樹高は 1 m、花期は 8 月～9 月。北海道から本州にかけて分布。花に止まっている蝶の名前はアサギマダラ（浅黄斑）という。大型の美しい姿で長距離の渡りをする蝶として知られている。

渡りをする蝶がいるとは耳にしていたが、実際に観察できたのは初めての経験、夢中でシャッターを切った。（令和元年 8 月 1 日 撮影地 霧降高原）



私の一句〈八月の句会から〉

河合 和郎

異常気象の夏。昨年も暑かったが今年も負けずに猛暑の毎日。昭和 20 年の夏も暑かった。何もかもを失った日本は飢えと混乱が続く戦後であった。

冷房の効いた部屋の中で、終戦の夏を思い出す。幸せ過ぎるほどの今である。

黄揚羽を三つ育てし苗山椒 池田ときえ

山椒の苗で揚羽蝶が育った。これは感動ものである。喜々として舞い上がる黄蝶の姿が目につく。

夕立や妻の小言も立消えて 田中 信昭

日頃から「妻の小言」に悩まされている男共の何と多いことか。しかし、これは紛れもない現実。

街は今日祭の彩に染まりけり 飯田富美子

祭一色に湧く街の様子を一言で完写。無駄のない表現で言い尽くしている。平明にして佳句。

老友の返信未だ梅雨寒し 馬場 征彦

返事のない友を心配する作者。改めての問い合わせもちょっと……。結果的には元気だった由。

すれ違ふ浴衣美人の髪飾り 野口 浩平

「あんたどこ見てんのよう！」というコマーシャルがある。男は幾つになっても男。若さの秘訣かも。

長雨に海水浴場閑古鳥 東山 榮

七月の大事な海水浴シーズンに長雨続き。遊ぶ方も困ったが商売の方はもっと気の毒な状態に。

岳人を峰ごと包む夏の雲 矢島 一雄

スケールの大きな伸び伸びとした山の句。体験に基づく作品には臨場感があり、説得力がある。

空腹とひもじさは別敗戦日 河合 和郎

こうした体験を語れる人も年々少なくなっている。戦争は悲劇しか生まないことを改めて思う。

編集後記

今月号は掲載内容が少なく、2 編の寄稿文に助けられました。それでも若干余白が生じたので、私の拙い一文を挿入し、6 頁にまとめました。編集を初めて担当しましたが、編集作業の難しさを実感した次第です。

情報委員会・内山雅之

